

ドミニカ共和国政府代表団歓迎式典（仮訳）

於 計画経済省（MIDEPLAN）

2025 年 10 月 20 日

JICA コスタリカ

所長 吉田憲

ドミニカ共和国政府代表団の皆様

MIDEPLAN の皆様

ご来場の皆様

皆さま、おはようございます。

まず初めに、ドミニカ共和国からお越しの皆さまに、心より歓迎の意を表します。

また、今回の協力の場を快くお引き受けくださり、調整を進めてくださった MIDEPLAN の皆さまに、深く感謝申し上げます。

ご存じの通り、ドミニカ共和国とコスタリカの両国は、経済発展の面で既に一定の水準に達しております。OECD によれば、ドミニカ共和国は「中上位所得国」に位置づけられ、またコスタリカも世界銀行により本年 7 月に「高所得国」として分類されました。

この観点からも、国際協力のあり方は、20 年前とは大きく変化しつつあります。かつては支援の受け手であった両国は、現在では段階的に「協力を提供する側」、すなわち南南協力・三角協力の担い手として期待される存在へとシフトしています。

三角協力について申し上げますと、JICA は 50 年以上の実績を有しており、その始まりは 1975 年のタイとの第三国研修プログラムです。それ以来、JICA は 12 か国と三角協力のパートナーシップを締結し、これまでに 8 万人以上が第三国研修に参加し、さらには 2,000 名以上の非日本人専門家を第三国へ派遣してまいりました。

こうした長年の経験から、JICA は以下のような強みを培ってまいりました。

- パートナー国の「主体性」への尊重
- 知識の「共創」
- パートナー国との信頼関係に基づく協力ネットワークの構築
- 共に創り上げた知見をグローバルな課題解決へ活用すること

今週実施されるドミニカ共和国とコスタリカの交流は、まさに私たちが推進したい三角協力の好例です。

この取り組みは、ドミニカ共和国側からの主体的なニーズに端を発しており、JICA はこれまで両国と築いてきた「信頼」に基づき双方を結びつけることができました。そして、この訪問と経験交流から、新たな知識・学びが共に創出されることを期待しております。

この訪問が一過性のものに終わるのではなく、これを出発点として、両国の協力関係がより一層深まり、継続的に発展していくことを心より願っております。

本日は誠にありがとうございました。